

二回  
世考

二科會と文展(上)

碧梧桐

の二科會

文展の油畫と對抗すゝ意味の上うらゝ、二三子の作  
を除いては、随分突飛な殊更な異色を立てゝ佇まを持  
つてゐるが、今年のも三回子なつて、それをおつと  
落着いて来た。変つたものを書かゝとすゝすゝと、  
銘々のおつてゐるものも掘んで行かゝとすゝ其面目  
さかほのめゝゐる。フワ／＼してゐたものが、何だ  
か據り所を得た形になつた。言はずに胸あすわつたの

122

5  
10  
15  
20